

原発 **〇** にむかって

2012年8月3日 No.27

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel: 03-5978-2741 fax: 03-5978-2865 mail: sien@tokyominiren.gr.jp

20万人の声つなぐ 7・29脱原発 国会大包囲



7月29日(日)、首都圏反原発連合の呼びかけによる「7.29脱原発 国会大包囲」が行われました。日比谷公園での集会後にデモ行進を行い、国会議事堂をキャンドルライトで包囲しました。参加者は主催者発表で20万人に達し、危険性を無視して原発再稼働を進める政府・電力会社に対する国民の声が響きわたりました。

日比谷公園の集会では、タレントの山本太郎氏や青山学院大の小島敏郎教授が、国民投票に変わるパブリックコメント提出と原子力規制委員会の人事撤廃の署名協力と呼びかけました。ピースボート代表の吉岡達也氏は「世界は広島、長崎、福島の実験を持つ日本でなぜ原発を再稼働するのか、大きな疑問を持っているが、そ

れに最も明確に答えを出しているのはこのデモ」と話しました。全日本民医連の長瀬文雄事務局長も登壇し、「私は医療機関に所属しています、私たちの先輩は、原爆以来ずっと患者を診続けてきた肥田舜太郎先生。私たちは昨日や今日、このたたかいを始めたわけではないのです」「この国民の声を雑音としか聞こえない首相や政府にNOの声を突きつけ、『2012年、あの年に国民の力で原発をなくした』そんな記念すべき年にするため、頑張りましょう!」と訴えました。



夜は国会を光の大包囲

7.29 国会大包囲に参加しました。会議のため夜だけの行動でしたが、新聞・TV報道に見られるように大変な盛り上がりでした。

7時から集会がはじまり、「再稼働反対」「大飯をとめろ」のコールに参加しながら中心地に近づこうと努力しましたが、人が多すぎて前に進めません。コールの他にギターを中心に歌を歌ったり、笛や太鼓で踊る集団など多彩な行動があちこちで見られ、若いカップルや小さな子ども連れの方々も結構いました。また母親を車椅子に乗せた若い夫婦もおり驚きました。民医連関係では、中野共立病院の山本先生など3人が、見慣れた青い「平和」Tシャツを着て颯爽と自転車をこいでいました。代々木病院の井上院長も参加していました。

「なくせ原発行動」は「赤旗」「東京新聞」など一部で詳しく報道されていますが、他では意識的に小さく扱われています。できるだけ現地に足を運び、真実の姿を口コミで伝え続けることが必要だと再確認しました。(健和会・千坂専務の手記より)

縮切延長 **パブリックコメント**
ご意見はこちら(8/12まで)

投稿でエネルギー・原子力政策を変えよう

今後の原発のあり方を決めるパブコメ「エネルギー・環境に関する選択枝」への意見提出は8/12(日)18:00までとなっています。示された3つの選択枝のうち、「ゼロシナリオ」だけが脱原発への道です。多くのパブコメを送って、脱原発の意思を政府に示しましょう!

パブコメのホームページ「電子政府の総合窓口イ・ガブ」はこちら→

